

醸成が必要です。  
現代社会を生き抜くコミュニケーション能力の  
社会を取り巻く環境が大きく変化する時代だからこそ、



### コミュニケーション能力の醸成に繋がる 高等学校における演劇等ワークショップ事業とは

私が見学させて頂いたワークショップは『エア縄跳び』でありました。『エア縄跳び』とは、回し手は、縄がない状態で縄があるかのように腕を回し、中に立つ跳び手たちは、実際に縄があるかのように大縄跳びの動作を行うというものです。

このワークショップは実際に縄がないわけですから、縄に引っかかる生徒もいなければ縄を大きく回す必要もありません。

しかし、実際には回し手は回す必要のない腕を大きく回す行動や、中に立つ跳び手は、跳ばなくても良いのに大げさに跳びあがる行動をしています。

何も事情を知らない方から見れば、  
『何だこれは?』となる訳です。  
しかし、真意は、こうです。

形の無いものをさも存在するかの様にイメージして、どれだけ『表現する』ことができるのかが肝になります。

その様にイメージして『表現する』ということが『表現力』を養うこととなり、『自己表現能力』に繋がります。

そして、行動表現をする生徒の周りにはいる生徒がそれを受け入れるということも、非常に重要な要素のひとつであります。

例えば、実際に縄に引っかかる人はいませんが、縄に引っかかったような表現をする生徒がいるのであれば、周りの生徒もその表現を受け入れ、それをイメージして対応していくということが、コミュニケーション能力の醸成に繋がる事になります。

この様に培われていく『イマジネーション』や『表現力』は、自分自身が今の様に感じているのかということを周囲に容易に伝わるように表現していく力になります。

例えば、日常生活の中で、他者が今どのような感情を抱いているか推し量れない中でも、相手の表情や行動を敏感に捉えてより感情や心情をイメージして対応できる能力、つまりは相手を尊重することにも繋がります。

活動  
報告書  
No. 29

# 挑戦せずして、

# 未来が開けますか。

We have potentials



Potential  
安心も自立も挑戦の先にある

岐阜県議会議員 Onda Yoshiyuki

# 恩田よしゆき

岐阜県議会議員 恩田よしゆき事務所  
〒501-2104 岐阜県山県市東深瀬 846-1  
TEL0581-32-9597 FAX0581-32-9598

HP 恩田よしゆき 検索    

岐阜県議会議員 恩田よしゆき後援会 討議資料 No.29

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

4 質の高い教育を  
みんなに



17 パートナースHIPで  
目標を達成しよう



# 岐阜県議会定例会

## 一般質問

### 現代社会を生き抜くコミュニケーション能力の醸成に寄与する 演劇等ワークショップ事業の今後の展望等について

社会を取り巻く環境がどれだけ変化をしても、人と人が接して相互に意思の疎通をはかる事は不変的な事であり、人の集まりである『集団』や『組織』においては、コミュニケーション能力は欠かすことのできない能力のひとつであり、特に若い方たちが身に付けるべき、身に付けておくべき能力と言えます。

少年期から青年期、つまり成長過程において培われたコミュニケーション能力は、社会に出てからも、時にその能力が自分自身の人生さえも左右しかねません。



## ワークショップ事業の継続 中学生への対象拡充に向けて

## コミュニケーション能力の醸成に大きく寄与する演劇等

### 社会が求める人材の現状

一般社団法人日本経済団体連合会が行った2018年度新卒採用者に関する企業アンケートの調査結果では、『選考にあたって特に重視した点』として『コミュニケーション能力』が第1位に上がるなど、多くの企業においてコミュニケーション能力が高い人材を必要としていることが分かります。

### その一方で、コミュニケーション能力の現状

文部科学省の調査では、現在の高校生の約21%が『人間関係をうまく保つことができない』ことを理由として、高校を中途退学している現状があります。

更に、中央教育審議会による『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』の報告でも『コミュニケーション能力、対人関係能力』などの基本的な能力の低下が指摘されています。

### 岐阜県では

岐阜県教育振興基本計画第3次岐阜県教育ビジョンの中で同様の問題意識を共有しており、豊かな人間性を育む教育を推進するため、コミュニケーション能力・自己表現力を高める教育活動の充実を図ってまいりました。



その中の代表的な事業として  
コミュニケーション能力の醸成に大きく寄与し、県内外から高く評価されている代表的な取組みが『高等学校における演劇等ワークショップ事業』です。

### 高等学校における演劇等ワークショップ事業とは

県教育委員会と関係機関が連携協力を図り、演劇世界のプロの演出家や俳優等を講師として招聘し、演劇表現等のワークショップを実施します。自己表現を通じて、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るものであり、平成24年に東濃高校で始まり、現在では13校の県立高等学校で実施されています。

可児市文化創造センター館長の衛紀生氏に監修を受け、伝統ある『文学座』からは、演出家の西川信廣氏や俳優の瀬戸口郁氏、富沢亜古氏らのいずれもプロの演出家や俳優を招聘してワークショップを開催したのが始まりであります。

そして、最近では、恵那南高校で実施されたワークショップに女優の竹下景子氏にお越し頂いております。

### 平成30年3月には、県教育委員会と文学座との間でコミュニケーション能力向上のための連携協定が結ばれました。

しかし、『高等学校における演劇等ワークショップ事業』は文化庁の補助事業を活用したものであり、費用の2分の1は国費で賄われてきました。この補助事業は来年度で期限を迎えることから、再来年以降は県で財源の確保をして演劇ワークショップ事業の継続をするか、同等のコミュニケーション能力の向上を図る事業の立ち上げをしていくべきだと考えます。

又、高等学校において人間関係を起因とする中途退学者が一定数存在する現状であることから、高校生より早い段階である中学生からコミュニケーション能力を身に付けていく取組みを広げていく必要があります。



### 質問

コミュニケーション能力の醸成に効果的な『演劇等ワークショップ』事業の今後の展望及び中学校への拡大についてお尋ねを致します。

### 答弁

#### 教育長

演劇等ワークショップは、演劇表現の手法を通じて感情を開放し、同時に他者に認められる機会を繰り返し得ることで、自己肯定感やコミュニケーション能力を高める効果があると認識しています。

実際に、昨年度実施した12校のアンケート結果では、参加生徒の約8割が『他の人に受け入れてもらえる安心感を得ることができた』と回答しており、教員からは『生徒がコミュニケーションの大切さを実感することで、対人関係を構築する力がついてきた』と報告されています。

更に、高校における取組みを参考に、実際に中学校においてワークショップを導入した例もあり、参加した中学生からも肯定的な感想を得ていると伺っております。

こうしたことを踏まえ、議員ご提案の通りワークショップの継続に向けて検討すると共に、中学校での導入に繋がるように中学校の職員や市町村の担当者を対象に、高校の取組みを体験することができる機会を提供してまいります。